

2026 年度 天使大学大学院看護栄養学研究科
看護学専攻【保健師コース】

一般選抜（Ⅱ期）

「専門科目（保健師）」

試験日：2026年1月24日（土）

時間：9:30～10:30

答案作成上の注意

1. 問題紙は3枚です。
2. 解答用紙は5枚です。
3. 試験開始の合図のあとに問題紙、解答用紙が配られているか必ず確認してください。
4. 試験開始の合図のあとに解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。
5. 解答はすべて解答用紙に記入してください。
6. 解答用紙は横書きです。
7. 解答用紙が不足した場合、または交換したい場合は挙手してください。
8. 問題紙・解答用紙とも回収します。

天使大学大学院

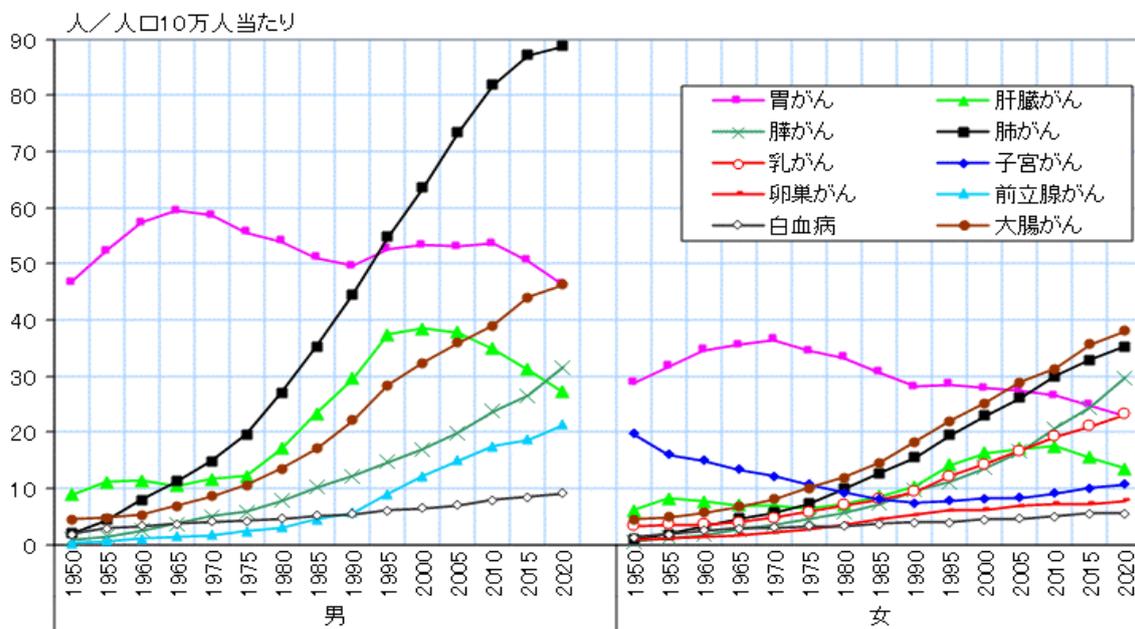
問題 1 下記の 図 1 図を見て、以下の問いに答えなさい。

問 1 下記の「主要な部位別がん死亡率の推移」から、読み取った内容を述べなさい。

問 2 問 1 で読み取ったがん死亡率の推移の背景について、考えられる事を述べなさい。

問 3 がん死亡率の現状から考えられる、看護職が取り組む必要のあるがん対策・看護について述べなさい。

主な部位別がん死亡率の推移



(注) 肺がんは気管、気管支のがんを、子宮がんは子宮頸がんを含む。大腸がんは結腸がんと直腸がんの計。
(資料) 厚生労働省「人口動態統計」

問題 2. 以下の問いに答えなさい。

問 1 高齢者虐待行為の種類を 5 つ挙げ、内容について説明しなさい。

問 2 世界保健機関(WHO)のヘルスプロモーションの考え方で適切なのはどれか。

1. 専門職による健康教育が主軸になる。
2. 人々が自らの健康をコントロールできるようにするプロセスである。
3. 「2000 年までにすべての人に健康を」がスローガンである。
4. 三次医療体制の強化を目指し整備する。

問 3 改訂版デンバー式発達スクリーニング検査について正しいものを選び。

1. 知能指数の判定が可能である。
2. 適応年齢は 0～6 歳である。
3. 判定結果は数値で示される。
4. 「微細運動—適応」「言語」「粗大運動」の 3 領域について判定を行う。
5. 1 領域に 10 の検査項目がある。

問 4 母乳栄養を希望する褥婦の退院指導で適切なのはどれか。

1. 授乳前の乳房緊満感がない場合は母乳不足である
2. 児が欲しがるときはいつでも授乳してよい。
3. 体重増加量が 30g/日以下の場合にはミルクを足す。
4. 泣き止まない時はゴムの乳首やおしゃぶりを与えても良い。

問 5 現在の日本の精神医療で正しいのはどれか。

1. 精神保健福祉センターは都道府県と政令指定都市に設置されている。
2. 精神病床に入院している患者の疾患別内訳では認知症が最も多い。
3. 精神障害者保健福祉手帳制度によって通院医療費の給付が行われる。
4. 人口当たりの精神病床数は経済協力開発機構(OECD)加盟国の中では最も少ない。

問 6 気管切開下で人工呼吸器を装着している利用者に対して、訪問看護事業所が災害に備えて行うことで適切なのはどれか。

1. 事業所内に利用者が避難できる場所を確保する。
2. 災害時の個別支援マニュアルを作成する。
3. 医療機関から非常用の人工呼吸器を借りる。
4. 人工呼吸器の予備の回路を預かる。

問題 3 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

A さん 78 歳の女性、80 歳の夫と 2 人暮らし。50 歳代で受けた健診で高血圧を疑われていたが、そのまま放置していた。60 歳の時に再び健診を受け、要精密検査となり受診をしたところ高血圧の診断を受け、内服治療が始まったが、自覚症状がなく、治療は自己中断することが多かった。

昨年、トイレで意識を失い救急搬送され脳梗塞の診断を受けた。左半身不全麻痺が残ったが、リハビリテーションを経て、杖歩行でトイレ移動が可能となり退院した。2 か月前に、誤嚥性肺炎で入院した。その後は、受診時にリハビリを受け、嚥下訓練、経口摂取訓練を実施している。

高齢者日常生活自立度 B1、認知症高齢者自立度Ⅱa、要介護 2 の認定をうけて、退院時には、トイレや浴室、廊下に手すりを設置した。訪問看護は週 1 回、通所デイケア（入浴とリハビリテーション）週 1 回、訪問リハビリ週 1 回を利用している。

血圧 134~150/86~110 mm Hg。脈拍 76~82 回/分、体温 36.3~36.8℃、呼吸数 18~20 回/分。内服は、降圧薬、抗凝固薬、下剤を服用しているが、飲み忘れることもある。

自宅では、夫が一人で家事と介護を担っている。食事は、軟らかめにするなど工夫しているが、むせることが多く、食べるのに時間がかかり摂取量は減少している。水分摂取も減少傾向にある。便秘傾向で下剤を服用しているが、排便が無い日が続くとお腹が張るので、踏ん張ってしまう。整容は自力で行うが、入浴は夫が介助をしている。移動は、室内は伝い歩きや杖歩行をしている。日中はソファでテレビを見て過ごすことが多い。座位保持は可能だが、長時間の立位での作業は難しい。A さんは、「利き手は使えるので前のように料理や掃除をしたいと思っているのに、うまくできないのが悔しい、夫にやってもらうことが多くて申しわけない。」と言っている。

夫は、「今は、何とか家事と妻の介護をしているが、食事に一番気をつかう。自分にも高血圧と腰痛があり、いつまで妻の介護ができるのか不安だ。娘は仕事をしていて、子どもに手がかかるが、週末には来てくれて買い物や家のことを手伝ってくれるが、あまり頼るわけにもいかない。」

「以前は、町内会の仕事をしていたが、妻が倒れてからは、介護中心の家の中ばかりの生活で、時々気が滅入ってしまう。」と話している。

問 1 A さんについて疾患や症状等をふまえたアセスメントをして、その内容を記述しなさい。

問 2 A さんと家族の情報について、アセスメントをして、その内容を記述しなさい。

問 3 A さんの事例で考えられるヘルスニーズ（看護問題）を列挙しなさい。

問 4 優先度の高いヘルスニーズ 4 つについて、目標を設定し、看護計画を立案しなさい。